

4. 地域資源活用の効果と課題

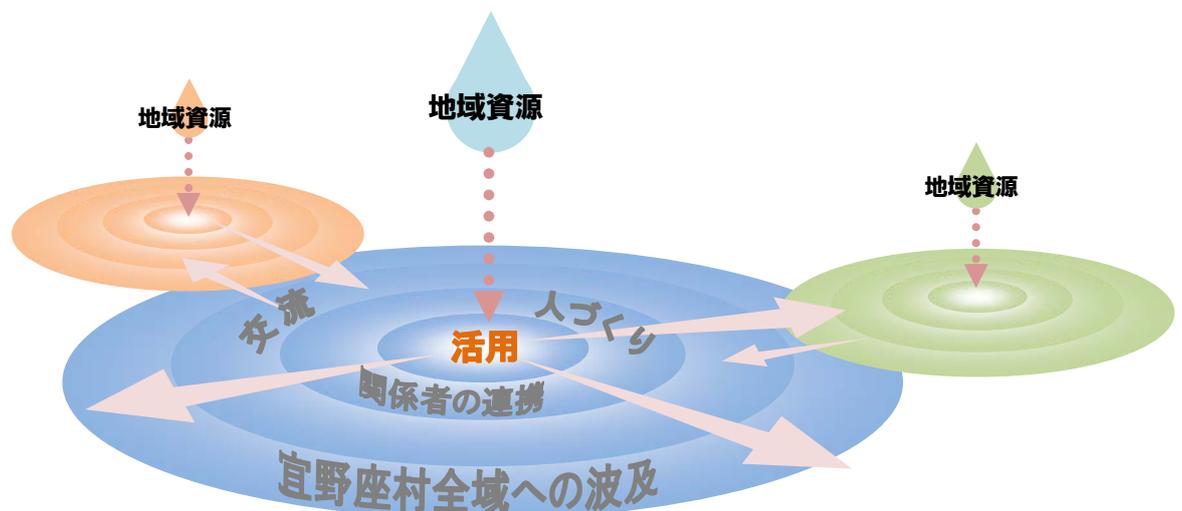
4.1 地域資源活用の効果と課題

(1) 地域資源活用の効果

■地域資源の有効活用は、関係者の連携、地域住民や観光客との交流の促進が図られるとともに、様々な効果が多方面へ波及することによって、更なる宜野座村の活性化につながる。

〔地域資源活用による主な効果〕

観光関連産業の拡大・創出	既存の旅館業、飲食業、直売所等の拡大や新規事業者の参入が図られる。
雇用の増大	観光関連産業において、雇用の増大が図られる。
高齢化への歯止め	本村において若年層の雇用が増大するにより、村の高齢化が抑制される。
地域産業への波及	地域資源の活用(地元食材の利用、宜野座村民の活用)等、地産地消の促進によって、村の産業(農林水産業、サービス業等)の活性化が図られる。
村の収入の増大	民泊事業、体験農園、阪神タイガース関連グッズ販売等、地域資源の活用により、村民の収入増加が図られる。
住民の意識の変化	地域資源の活用により、さまざまな効果が得られることを経験することで、新たな視点で地域資源を活用する等、村民の意識が変化する。
住民の地域愛の向上	宜野座村の地域資源を知り、活用することで、子供から大人まで、宜野座村への愛着が一層深まる。



「健康(ガンジュー)づくりの里 GINOZA」 「水と緑と太陽の里・宜野座村」

図 4.1-1 地域資源活用による宜野座村全域への波及効果のイメージ

〔経済波及効果〕

- 宜野座村の地域資源を活用した地域活性化の促進は、物を販売して得られる直接的な金銭効果の他、その物を作るための原材料を取り扱う事業者の収入増、そこで働く従業員への給与支払い、その給与で購入される食品・日用品の売り上げの増加など、さまざまな分野へ効果が波及することが期待される。
- 沖縄県の観光統計実態調査及びその他の統計資料から、県外・外国客及び県内客が宜野座村の地域資源に消費する観光消費額は12億5千万円/年（平成22年度）と推計される。今後、地域資源活用により宜野座村への来村者の増加を促進し、観光収入を増加させることが望まれる。
- 以下では、現段階で利用者数が把握できる宜野座村の既存施設を抽出して、これらの施設利用者が将来的に増加した場合、観光消費額がどの程度増加し、その観光消費額によって宜野座村全体への経済波及効果がどの程度生じるかについて、施設利用者数等の前提条件を設定し試算した。
- 各施設の利用客数が年間約15万人（現状の約30%）増加することで、観光消費額が16億5千万円/年に増加する他、各産業へ1.3倍の波及効果が生じると推計される。

《宜野座村の観光消費額の推計》

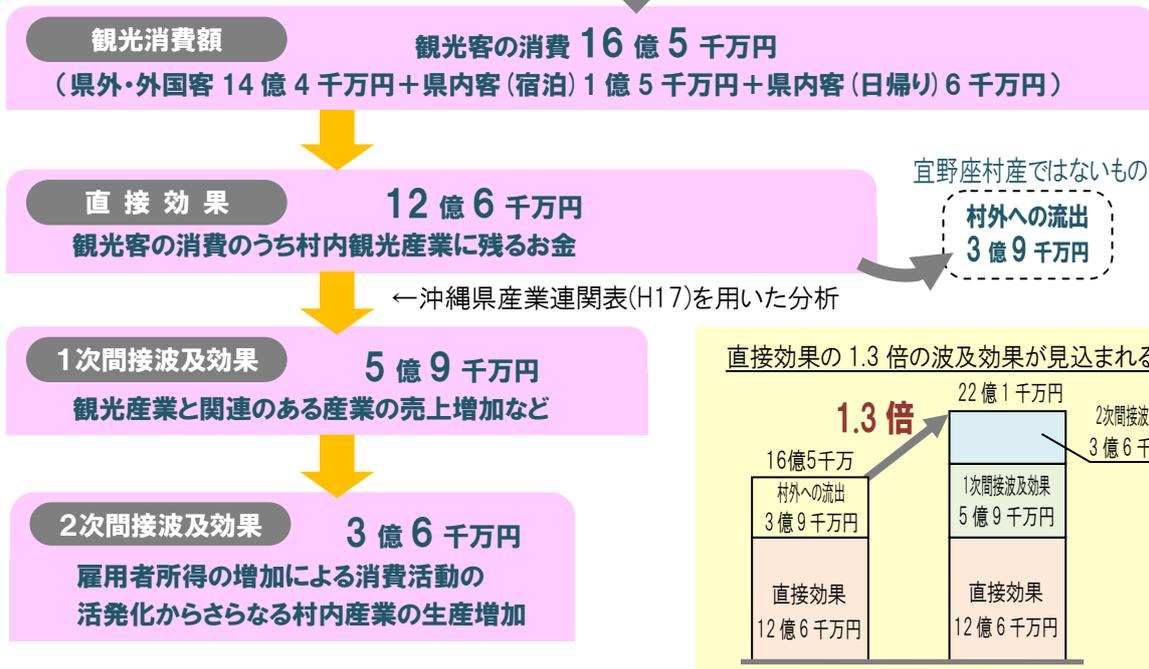
- 宜野座村の観光消費額は、沖縄県の観光消費額に宜野座村への来村者割合を乗じて推計。
 - ① 沖縄県の観光消費額は4,418億円、観光客数は約930万/年、一人当たり消費額は約47,600円（「平成22年度観光統計実態調査報告書」）。
 - ② 宜野座村への来村者割合は約0.42%（ $=0.153 \times 0.028$ ）*。一人当たり消費額は約32,200円（交通、宿泊に関連する消費を沖縄県の値より減額）。
- ※ 北部地域（恩納村、名護市、金武町、宜野座村）への訪問者割合15.3%（「平成22年度観光統計実態調査」）。
宜野座村の宿泊受入れ可能者数割合2.8%（「ホテル・民宿等の収容人員数」沖縄県観光企画課（平成20年10月1日現在）より、宜野座村の割合（北部地域の収容人員計18,340人、宜野座村の収容人員516人））。
- ③ $930\text{万人}/\text{年} \times 0.0042 \times 32,200\text{円}/\text{人} \doteq 12\text{億}5\text{千万円}/\text{年}$
- 宜野座村の施設利用者が、下記の設定条件の通り現状より約30%増加した場合、観光消費額は約16億5千万円/年になると推計される（ $12\text{億}5\text{千万円} \times 1.3 \doteq 16\text{億}5\text{千万円}$ ）。

《利用客増加の設定条件》

No	地域資源	現状(人/年)	目標値(人/年)	設定条件等
①	未来ぎのぞ	149,000	179,000	・②～⑤で増加した人数の約25%を集客 ⇒現状の20%増
②	かなたラソ沖縄	115,200	143,000	・当初計画値143,000人/年の確保 ⇒現状の約25%増
③	総合運動公園	27,900	50,000	・5万人台の確保(H15～H20は4.5～8.6万人) ⇒現状の約80%増
④	漢那ダム	89,000	150,000	・H20～H22の3年間の傾向から5年後を推計 ⇒現状の約70%増
⑤	国際交流村	1,300	1,625	・かなたラソ沖縄と同じ目標(約25%増) ⇒現状の25%増
⑥	カンナリゾートヴィラ沖縄	12,000	15,000	・かなたラソ沖縄と同じ目標(約25%増) ⇒現状の25%増
⑦	宜野座カントリークラブ	59,000	59,000	・現状維持
⑧	宜野座村立博物館	3,000	4,500	・⑩民泊で増加した人数の半数を確保 ⇒現状の50%増
⑨	漢那ダムまつり	6,000	6,000	・現状維持
⑩	宜野座村産業まつり	6,000	6,000	・現状維持
⑪	ぎのぞ海まつり	6,000	6,000	・現状維持
⑫	宜野座村まつり	20,000	20,000	・現状維持
⑬	ガラマンホール	15,000	15,000	・現状維持
⑭	JA沖縄研修所	5,400	6,750	・かなたラソ沖縄と同じ目標(約25%増) ⇒現状の25%増
⑮	民泊	1,500	4,500	・受入れ農家数を50%増(45件)、1件当たり年間受入れ人数を倍増(100人) ⇒現状の3倍増
合計		516,300	666,394	⇒現状の約30%増

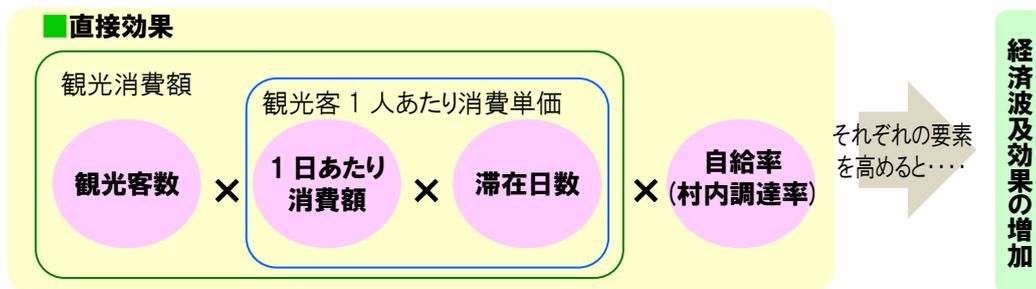
※試算では、上記の①～⑮の施設で宜野座村の観光収入が全て消費されると仮定しているため、宜野座村の経済活動の実態とは異なる。

既存施設の利用客の増加(仮定)により観光消費額が増加(12億5千万円⇒16億5千万円)

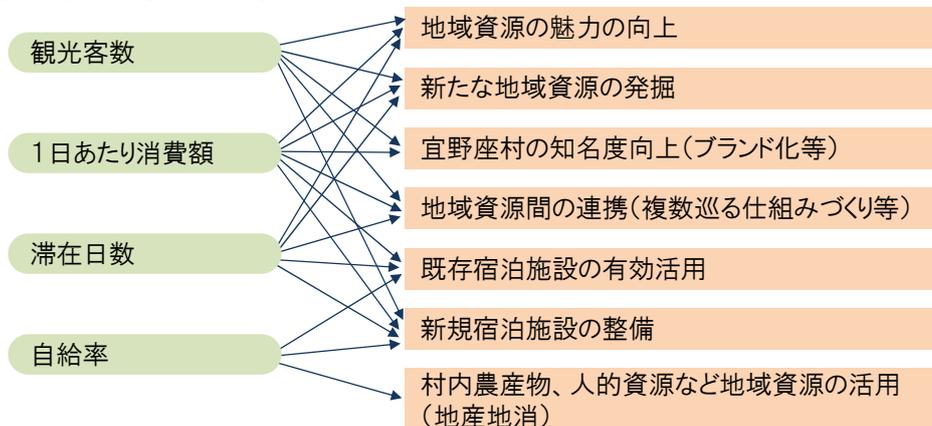


■ 経済波及効果の推計値に影響を及ぼす要素

経済波及効果は、「観光客数」、「1日あたり消費額」、「滞在日数」、「自給率(村内調達率)」の4要素のうちどれか1つでも増加させることができれば効果を高めることができるが、実際の経済活動では、これらの要素のバランスが重要となる。



■ 各要素を高めるための方策



【阪神タイガースキャンプの効果】

- 阪神タイガースは、2003年～2012年まで10年連続で宜野座村で春季キャンプを行っている。
- 阪神タイガースが宜野座村で春季キャンプを行うことで得られる効果は、経済波及効果の他、宜野座村の知名度向上、宜野座村産農産物の販路拡大等が考えられる。阪神タイガース球団の知名度を活かし、タイアップにより各種イベントや商品開発を積極的に行うことで、宜野座村の地域活性化が期待される。

① 宿泊施設整備による効果

- 沖縄県で春季キャンプを行ったプロ野球球団が春季キャンプ中に消費した主な費目は、消費額が多い順に宿泊費、土産品・グッズ購入費、飲食費、交通費、娯楽レジャー費、練習施設等の整備費、クリーニング代、アルバイトへの支払い、施設使用料である（「沖縄県における2011プロ野球春季キャンプの経済効果」りゅうぎん総合研究所）。
- 宜野座村は、最も収入が見込まれる宿泊施設の不足が「弱み」として挙げられるが、今後、民間宿泊施設の積極的な誘致や民泊事業の拡大を図ることで、宜野座村での消費額の増加効果が期待される。

② 宜野座村の知名度向上

- 新聞、テレビ、インターネット等で「阪神タイガース」と「宜野座村」がセットでPRされることで、県内外における宜野座村の知名度アップ及び「Baseball Village Ginoza(野球村 宜野座)」のイメージ形成が図られる。

③ 来村者数の増加

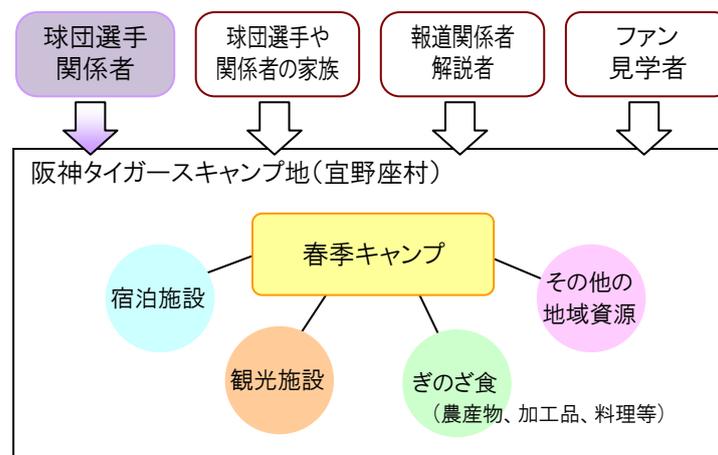
- 阪神タイガース球団受入れを村ぐるみで行い、「宜野座村」がメディアに好意的に取り上げられることで、県内外からの来村者数が増加することが期待される。

④ ぎのぞ産農産物、特産品の販路拡大

- メディアによる宜野座村の農産物等の紹介や阪神タイガースの地元である関西地域との交流により、ぎのぞ産農産物、特産品、新商品等の販路拡大が期待される。

⑤ 他の地域資源の活用による効果

- 宜野座村の地域資源と阪神タイガースを共に活かした取り組みの展開により、宜野座村の地域資源が県内外に情報発信される。特に“ぎのぞ食”については、強い阪神からイメージする「健康」から、「健康食の村」のイメージ形成を図ることが考えられるとともに、農産物、加工品等の売り上げ増加、生産拡大等の効果が期待される。



[春季キャンプ期間以外の対策]

- 春季キャンプは観光客の比較的小さい2月に行われるため、冬季の来村者数のボトムアップが図られている。
- 春季キャンプ以外の時期は、阪神タイガース球団の活用で確立した「スポーツの村」のイメージをPRし、野球以外のスポーツ合宿について国内や東アジア等から誘致を促進し、一年を通じて選手、関係者、ファン等の誘客に向けた取り組みを行う。

(2) 地域資源活用の課題

■地域資源活用の課題について、「2.3 地域資源活用のイメージ」に示した取り組み毎に整理する。

表 4.1-1 地域資源活用の課題 (1/4)

大項目	中項目	活用内容	今後の取り組み	課題
1 「健康づくり」に係る地域資源の活用	①健康によい食の提供	①-1 村内での農林水産物生産拡大 ・安全で新鮮な農産物（ぎのぎ型エコ農業）、沖縄伝統野菜	<ul style="list-style-type: none"> ■村全域で、ぎのぎ型エコ農業の推進を図るとともに、安全で新鮮な農林水産物の生産を拡大し、村民や来訪者に提供する。 ■沖縄伝統料理の生産普及を図り、体に良い食材を村民や来訪者に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>エコ農業に対する農家の意識向上</u> ⇒収益の確保できる農産物の栽培指導、「ぎのぎエコ農産物」のブランド化 ■<u>「有機の里宜野座村推進基本計画」の推進</u> ⇒推進体制の構築、関係者の役割分担の明確化
		①-2 村内農林水産物の加工品・料理の開発、販路支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ぎのぎ産食材による、新たな農林水産加工品や料理の開発を、宜野座村商工会や関係団体、村内事業所等と連携し推進するとともに、販路開拓を積極的に行う。 ■沖縄本島の地理的中心という立地条件を活かし、「沖縄B級グルメ」、「沖縄G級グルメ」の開発を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>各団体の連携体制の構築</u> ⇒各団体からの商品開発情報の集約、商品開発・販売戦略の検討等を行う実施主体の確立(宜野座村観光推進協議会の活用等) ■<u>イベント開催に関する課題解決</u> ⇒食品の安全管理体制の構築、ごみ対策の検討、各種団体との連携確保(商工会、他市町村の関係部署、旅行会社等)
		①-3 村内農林水産物等の直売所等での販売	<ul style="list-style-type: none"> ■ぎのぎ産の農林水産物及び加工品等は、未来ぎのぎ等の直売所において優先的・積極的に販売し、普及を図る。 ■ぎのぎエコ農産物や沖縄伝統野菜などについては、インターネット等の通信販売を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>直売所の販売体制の強化</u> ⇒未来ぎのぎ等の直売所の集客数の増加方策の検討(周辺環境整備、ICからのルート案内整備等) ■<u>販売場所の確保</u> ⇒既存直売所の拡大、新規直売所の整備、飲食店との連携構築(店内での加工品販売等) ■<u>「ぎのぎエコ農産物」の情報発信</u> ⇒「ぎのぎエコ農産物」のブランド化、個人情報流出等のネット販売に関する課題解決
		①-4 村内農林水産物等の村内料理店等での利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ぎのぎ産の農林水産物及び加工品等は、村内の飲食店等での積極的な利用を図り、地産地消を推進する。 ■村内の給食等での積極的な利用により、地産地消を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>農家と飲食店等との連携構築</u> ⇒取れたて野菜の情報や欲しい食材の情報等を共有できる仕組みの構築 ■<u>地元農産物を安定的に供給できる体制構築</u> ⇒地元農産物の品数の確保、量の安定供給、安価な価格設定、安全な農産物の生産
		①-5 美味しい水道水の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■美味しい水の条件を満たす水道水を「ボトルウォーター」として活用することを検討する。 ■水道水が「美味しい水」の条件を満足していることを村内外へPRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>「美味しい水道水」の品質確保</u> ⇒提供する資源(農産物・水等)の安全性を確保するための検査・チェック体制の構築、情報の開示 ■<u>「美味しい水道水」の情報発信</u> ⇒「美味しい水道水」のブランド化、知名度の向上方策の検討
		①-6 「ぎのぎ健康食」のPR(食材・加工品・料理)	<ul style="list-style-type: none"> ■ぎのぎ産の食材等を販売・使用する店を、「ぎのぎ食の店」等として認定する制度を検討する。 ■ぎのぎ産の食材等の栄養面での良さなど健康に良いことを情報発信する。 ■栄養情報提供店の拡大、沖縄健康食の普及を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■<u>「ぎのぎ産食材」に対する関係者の意識向上</u> ⇒「ぎのぎ産食材」のブランド化、新規商品開発、情報誌を発刊するNPO等との連携 ■<u>「ぎのぎ健康食」の情報発信</u> ⇒多くの人に見てもらえる情報ツールの検討(携帯サイト、カーナビ等)

表 4.1-1 地域資源活用の課題 (2/4)

大項目	中項目	活用内容	今後の取り組み	課題
1 「健康づくり」に係る地域資源の活用	② 快適な運動の場の提供	②-1 ウォーキング、マラソン、浜歩き等のルート設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「歩いて楽しい、走って気持ちがいい、自転車で行くのいい道」を村内の地域資源を巡るルートで設定する。 ■ 設定ルートの道には名前をつけて、親しみのある宜野座ならではの道づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>バリエーションに富んだルートの設定</u> ⇒既存ルートも踏まえたルートの検討、安全性確保に留意したルートの設定・ルート整備 ■ <u>親しみのあるネーミング、来村者への道案内にも使えるようなネーミングの設定</u> ⇒住民からの公募、全コースで統一感のある名前の設定の検討
		②-2 ウォーキング等の各種大会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「宜野座杯」や「宜野座〇〇大会」など、“宜野座”を使った各種大会を継続的に開催することで、本村の知名度向上を図るとともに、各種地域資源の良さを知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>支援者の確保・育成</u> ⇒各種大会やスポーツ合宿等に関わるスタッフの確保、ボランティアの養成 ■ <u>大会実施体制の構築</u> ⇒新規に大会を創設する場合は、大会企画・実施の体制づくり、集客プロモーションのノウハウ蓄積、各種団体との連携確保（関連スポーツ、レクリエーション団体、旅行会社等）が必要
		②-3 ウォーキングルート沿いの花整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ ウォーキングを楽しめるよう、ルート沿いを花さ・花壇等で整備する。 ■ 花整備は、住民参加により「地域の道」として、住民に愛着を持った道づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>整備費・維持管理費の確保</u> ⇒苗や資材等の確保、花街道整備後の維持管理費の確保 ■ <u>バリエーションに富んだルートの設定</u> ⇒既存ルートも踏まえたルートの検討、安全性確保に留意したルートの設定・ルート整備 ■ <u>親しみのあるネーミング、来村者への道案内にも使えるようなネーミングの設定</u> ⇒住民からの公募、全コースで統一感のある名前の設定の検討 ■ <u>維持管理体制の構築</u> ⇒地域連携による景観整備及び整備後の維持管理体制の構築
		②-4 スポーツ合宿の推進 ・スポーツ施設の充実、合宿誘致(施設確保)	<ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツツーリズムの推進の一環として、村内のスポーツ施設に関する情報発信やスポーツ合宿の誘致など、積極的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>受け入れ体制の構築</u> ⇒スポーツ合宿の宿泊人数に応じた宿泊施設の確保、新たな宿泊施設の整備、ペンションと村内飲食店との連携によるスポーツ合宿受け入れ体制の構築（宜野座村観光推進協議会の取組拡充） ■ <u>効果的な情報発信</u> ⇒多くの人に見てもらえる幅広い情報発信の検討(スポーツ雑誌、新聞、スポーツ関連サイト等)
	②-5 「スポーツ村・野球村」としてのPR (スポーツ施設・ターゲットバードゴルフ等)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲットバードゴルフや野球等の競技人口の増大を図るとともに、「スポーツ村」、「野球村」として本村をPRする。 ■ 野球においては、阪神球団の知名度を活かし、タイアップにより、各種イベントや商品開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>スポーツ環境の充実、スポーツ強化</u> ⇒村内施設の充実、指導者の育成等によるスポーツ人口の増加及び「幅広いスポーツで強い宜野座」の形成 ■ <u>阪神タイガース広報部との連携</u> ⇒スポーツ関連の村の専属課の設立(スポーツ振興課等) 	
③ 心地よい休養の場の提供	③-1 タラソテラピーの利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ タラソテラピーとスポーツや健康づくりと併せて、休養の場として積極的なPRを図る。 ■ 沖縄県エステティック・スパ協同組合、沖縄WATSUセンターとの連携により、タラソテラピー(海水療法、海藻療法、食事療法)の利用拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>効果的な情報発信</u> ⇒多くの人に見てもらえる幅広い情報発信の検討(美容・スポーツ関連メディア、新聞、スポーツ関連サイト等) ■ <u>スポーツ合宿者への利用促進</u> ⇒スポーツ合宿を誘致する主体と連携し、村内での合宿者への優待等の検討 ■ <u>情報交換</u> ⇒沖縄県エステティック・スパ協同組合等と連携し、情報交換、新たな観光客誘致戦略等の検討 	

表 4.1-1 地域資源活用の課題 (3/4)

大項目	中項目	活用内容	今後の取り組み	課題
1 「健康づくり」に係る地域資源の活用	③ 心地よい休養の場の提供	③-2 宿泊・休養の場の提供 ・宿泊施設進出の促進 ・休養の場の整備 ・クラインガルテン整備	<ul style="list-style-type: none"> ■「朝日を存分に浴びることができる健康村」として民間の宿泊施設の誘致を図る。また、クラインガルテンの整備を検討する。 ■ウォーキングコースや浜歩きコースの途中等に簡易な休憩場の設置を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新規事業者の参入しやすい環境整備 ⇒用地の確保、税制優遇等のメリットの検討 ■効果的な情報発信 ⇒シニアを対象とした情報発信等、対象を絞った効果的な情報の発信(新聞、旅行会社、レンタカー会社等) ■整備費・維持管理費の確保 ⇒クラインガルテン及び休憩所整備費の確保、整備後の維持管理費の確保 ■維持管理体制の構築 ⇒地域連携による整備後の維持管理体制の構築
		③-3 花の名所づくり (サガリバナなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の気候を活かした、沖縄・宜野座ならではの「花の名所」づくりを行う。 ■ウォーキングルート等の花整備とともに花の名所づくりにより、心地良い休養の場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費・維持管理費の確保 ⇒苗や資材等の確保、花街道整備後の維持管理費の確保 ■維持管理体制の構築等 ⇒日常生活の中で、きれいな街並みづくりを心掛ける住民の意識の醸成、整備後の維持管理の継続
		③-4 伝統芸能・民俗行事の継承と普及	<ul style="list-style-type: none"> ■伝統芸能や民俗行事の各区での伝承や後継者育成とともに、村・関係団体等の支援により、継承・普及を図る。 ■観光客など一般の人にも、伝統芸能や民俗行事の良さを広めるため、公演等のPRや村外での公演を村の支援等のもとに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■伝統芸能の継承機会の創出 ⇒伝統芸能・民俗行事の継承の場の創出、来村者への体験講座の開設
		③-5 「朝日の健康村」としてのPR (宿泊施設、休養施設)	<ul style="list-style-type: none"> ■健康的なイメージである「朝日の健康村」として、健康食、スポーツと併せて、PRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■効果的な情報発信 ⇒シニアを対象とした情報発信等、対象者を絞った効果的な情報の発信(新聞、旅行会社、レンタカー会社等)
2 「交流」、「産業振興」に係る地域資源の活用	④ 交流(交流人口増大)	④-1 自然資源の活用 ・漢那福地川、宜野座福地川、かんな湖、松田鍾乳洞、洞窟・洞穴	<ul style="list-style-type: none"> ■川・ダム湖、海浜、鍾乳洞をより多くの人が観て、聞いて、嗅いで、触れて、味わうことができるよう、散策路や休憩所、案内施設等を整備する。また、カヌーやダイビング等各種体験ができるよう、受け入れ体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費・維持管理費の確保 ⇒整備費の確保、整備後の維持管理費の確保 ■受け入れ体制の構築 ⇒新たな地域資源活用メニューの創出、インストラクター・コーディネーターの育成、体験内容等に関する幅広い情報発信
		④-2 歴史資源の活用 ・カー、神道、遺跡、古民家	<ul style="list-style-type: none"> ■本村の豊富な歴史資源を多くの人が観ることができるよう、案内施設やパンフレット等を整備する。 ■カー等の水辺空間については、拝みの場・癒しの場として、水に近づけるように保全・整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費・維持管理費の確保 ⇒カー周辺整備費の確保、整備後の維持管理費の確保 ■受け入れ体制の構築 ⇒新たな地域資源活用メニューの創出、インストラクター・コーディネーターの育成、体験内容等に関する幅広い情報発信 ■安全性を確保した整備 ⇒来訪者の安全確保、地域資源を荒らされないような対策等の検討
		④-3 その他資源の活用 ・民泊によるぎのぎ体験	<ul style="list-style-type: none"> ■宜野座村観光推進協議会を中心として、受け入れ体制の充実、体験メニューの充実を図り、民泊を推進する。 ■村民の民泊への参加を促進するため、全国の活動事例の情報等の発信など、村民への情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■民泊受け入れの情報発信 ⇒多くの人に見てもらえる幅広い情報発信の検討(学校への案内送付、新聞、旅行会社、レンタカー会社等) ■受け入れ農家の拡充 ⇒民泊のメリットや留意すべき点の受け入れ農家への周知、勉強会の開催等

表 4.1-1 地域資源活用の課題 (4/4)

大項目	中項目	活用内容	今後の取り組み	課題
2 「交流」、 「産業振興」に係る地域資源の活用	④交流（交流人口増大）	④-4 その他資源の活用 ・琉球建築の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■琉球建築の良さを、後世や来訪者等に伝えるため、公共建築等での適用を検討する。 ■本村の建築様式を後世に伝えるため、古民家の保全及び活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費・維持管理費の確保 ⇒公共建築等に適用する際の整備費の確保、整備後の維持管理費の確保、古民家の保全及び活用に関わる維持管理費の確保
		④-5 その他資源の活用 ・国際交流村の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■本施設の利用拡大を図るため、施設情報を村内外に積極的に発信する。 ■本施設のイベント・合宿地・ロケ地としての利用について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■効果的な情報発信 ⇒多くの人に見てもらえる幅広い情報発信の検討(新聞、旅行会社、レンタカー会社等)
		④-6 その他資源の活用 ・ITオペレーションパークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ITオペレーションパークの入居企業との連携(優待特典制度、PR協力等)について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■メリットを共有できる仕組みの構築 ⇒お互いにメリットが得られる仕組みの構築
		④-7 その他資源の活用 ・村出身者の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■沖縄県工芸士宮城秀雄氏など、村外で活躍する村出身者との連携を図り、村の活性化に向けた方策を検討する。 ■村外で活躍している村出身者に宜野座ファンとして、村の活性化の協力を得るしくみを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■村出身者の協力 ⇒村の人材の発掘、協力者もメリットが得られるような取り組みの検討
	④交流（交流人口増大）・ ⑤産業振興	⑤-1 熱帯果実中心の農業活用 ・新たな果樹導入、観光農園(もぎとり)、オーナー制度、果実加工、防風林での果樹栽培、茶の栽培・体験、稲の栽培・体験	<ul style="list-style-type: none"> ■果樹栽培においては、マンゴーやパッションフルーツなどのもぎ取り園(観光農園)、オーナー制度、農業体験などを推進する。 ■観光農園では、果実によるジェラート(氷菓)などの販売・体験教室などを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■受け入れ体制の構築 ⇒観光農園、オーナー制度等の受け入れ体制の構築、受け入れ農家の育成、果実加工技術の向上、管理費の確保
		⑤-2 産業の活用 ・漁業体験、陶芸体験	<ul style="list-style-type: none"> ■漁村漁民活性化施設を活用し、漁業体験やマリンスポーツが体験できる場を創出し、「宜野座の海」の良さを体験してもらう。 ■陶芸体験ができる場を創出し、宜野座の伝統技術に触れてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■受け入れ体制の構築 ⇒新たな地域資源活用メニューの創出、インストラクター・コーディネーターの育成、管理費の確保、体験内容等に関する幅広い情報発信
		⑤-3 村内風景の活用 ・映画・ドラマのロケ地	<ul style="list-style-type: none"> ■村内の多様な風景を地域資源として紹介し、映画・ドラマのロケ誘致を行い、これにより観光客等交流人口の増大を図る。 ■ロケ地は劇場上映時にPRし、観光客を誘導するとともに、イベント等により出演者等を招待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■受け入れ体制の構築 ⇒ロケ隊の受け入れ体制の構築(宿泊施設の確保、仕出し弁当、村民との交流等)、村の専属課の設立(宜野座村観光推進協議会による対応等)
	⑤産業振興	⑤-4 再生可能エネルギーの活用 ・太陽光、バイオマス、小水力発電	<ul style="list-style-type: none"> ■本村は「水と緑と太陽の里」であり、自然エネルギーの宝庫であることから、これらのエネルギーや廃棄物等による再生可能エネルギーの活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■導入可能性の詳細検討 ⇒利用可能量の再検討、導入促進方策の検討(補助金、住民への普及啓発等) ■整備費・維持管理費の確保 ⇒施設整備費の確保、整備後の維持管理費の確保
		⑤-5 廃棄物の活用 ・廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> ■生ごみは、清掃センターの施設更新と併せた「バイオマス利活用センター」の整備など、エネルギー利用についても検討する。 ■既存の堆肥センターについては、畜産排泄物を積極的に受け入れ、堆肥化し、ほ場への還元を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■詳細検討の実施 ⇒基礎調査の実施、実施設計 ■整備費・維持管理費の確保 ⇒施設整備費の確保、整備後の維持管理費の確保 ■地域住民の合意形成 ⇒地域住民の合意形成(座談会、説明会等の開催検討)

4.2 事業化の可能性

■各地域資源の活用のスケジュールは、以下のとおり考えられるが、事業化については、予算の確保及び実施体制の確立等の状況を踏まえて実施するものとする。

表 4.2-1 地域資源活用のスケジュール(1/3)

地域資源の活用		取り組み内容	スケジュール											備考	
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33			
1. 「健康づくり」に係る地域資源の活用	① 健康によい食の提供	①-1 村内での農林水産物生産拡大	宜野座型エコ農業の推進	→											
			沖縄伝統野菜の生産普及	→											
		①-2 村内農林水産物の加工品・料理の開発、販路支援	新たな加工品等の開発・販路開拓	→											
			B級・G級グルメの開催	→ 各種団体との連携確保											
		①-3 村内農林水産物等の直売所等での販売	宜野座産農産物等の直売所での販売	→											
			インターネット等の通信販売	→											
	①-4 村内農林水産物等の村内料理店等での利用	飲食店での積極的利用	→												
		学校給食での積極的利用	→ 農産物の安定供給体制の確立												
	①-5 美味しい水道水の提供	ボトルウォーターとしての活用	→ 安全性の確認 関係機関との調整												
		おいしい水の情報発信	→												
	①-6 「ぎのぞ健康食」のPR	ぎのぞ食の店等の認定制度 宜野座産食材の情報発信 栄養情報提供店の拡大	→												
			→												
			→												
	② 快適な運動の場の提供	②-1 ウォーキング、マラソン、浜歩き等のルート設定	ルートの設定	→ ルートの選定 ルート活用											
			案内板・パンフレットの作成・設置	→											
		②-2 ウォーキング等の各種大会の開催	各種団体との調整	→ 実施体制づくり 各種団体との連携 スタッフの育成											
			大会の開催	→											
		②-3 ウォーキングルート沿いの花整備	花による道づくり	→ 整備地区の選定 整備											○
②-4 スポーツ合宿の推進	推進体制の構築	→													
	情報発信・誘致活動	→													
②-5 「スポーツ村・野球村」としてのPR	ビデオ、パンフレット等を活用したPR 阪神球団との連携による取り組み	→													
		→													

※備考欄の○は、施設整備等が必要な取り組み

表 4.2-1 地域資源活用のスケジュール(3/3)

地域資源の活用		取り組み内容	スケジュール										備考		
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33			
2. 「交流」、 「産業振興」 に係る地域資源の活用	④ 交流(交流人口増大)	④-5 その他資源の活用 (国際交流村の活用)	ビデオ、パンフレット等を活用したPR	→											
			イベント・合宿地・ロケ地利用	→											
		④-6 その他資源の活用 (ITパレシオパークの活用)	入居企業との連携(優待特典制度、PR協力)	→											
		④-7 その他資源の活用 (村出身者の活用)	村出身者との連携	→											
			宜野座ファンとしての支援	→											
		④ 交流(交流人口増大)・⑤ 産業振興	⑤-1 熱帯果実中心の農業活用	観光農園、オーナー制度、農業体験の推進	→										
				お茶や稲の栽培・体験	→										農地の確保 栽培 体験者の受け入れ
	新たな品目の導入検討			→											
	⑤-2 産業の活用		漁業体験・マリンスポーツ体験の場の創出	→											
			ぎのぞ陶芸体験の場の創出	→											
	⑤-3 村内風景の活用		映画・ドラマのロケ誘致	→											
		ロケ地の風景づくり	→												
	⑤ 産業振興	⑤-4 再生可能エネルギーの活用	太陽光発電施設の整備	→										○	
			小水力発電施設の整備	→										○	
			急速充電器の設置	→										○	
⑤-5 廃棄物の活用		バイオマス利活用センターの整備	→										○		
		清掃センターの活用	→												
		堆肥センターの活用	→												

※備考欄の○は、施設整備等が必要な取り組み